







# 縄張り

増山城跡全域縄張り図

LAYOUT OF THE CASTLE

0 100 m

大手口 (おおてぐち)

1



大手とは、城の正面玄関のこと。門が残っていないため、どこが大手か判然としない。ダムからの登山口、七曲がり、無常寺など諸説ある。

馬之背ゴ (E郭) (うまのせご E-kyaku)

2



西側の守りの要に位置する。E郭には城下側に土塁があり、七曲がりからの進入口に構えがある。F郭から茶道具や着など生活道具が出土している。

一ノ丸 (いちのまる)

3



本来「一ノ丸」とは本丸を指すが、構造的に本丸とは考えがたい。杉野家絵図に「一ノ丸」「列形」の記載がある。西側斜面に堅堀がつくられている。

又兵衛清水 (またべいしょうず)

4



桑城の跡、山名又兵衛という人物が発見したと伝わる。主郭にあたる二ノ丸の直下であり、城下の重要な水源であったと考えられる。とやまろ水百道のひとつ。

二ノ丸 (にのまる)

5



主郭。数々の郭は、二ノ丸を守るように配置されており、敵兵がもっとも侵入しにくい場所にある。虎口下には城跡内で唯一の石道がある。規模が小さく、防御機能よりも権力誇示とみられる。神水鉢の用途は不明で、手水鉢、旗台石、塔の心礎など諸説ある。角燈(提燈)は中心部でもっとも高所(124 m)である。

越中三大山城に数えられる増山城は、富山県を代表する中世城郭です。平地に天守閣などを築く平城とは違い、普請(土木工事)だけで強大な防御機能を得ることができた「山城」というタイプの城です。

芹谷野用水 (せりやのゐずみ)  
寛文3年(1663)には用水が開削され、翌年に増山新村ができる。

敵を芹谷野段丘で防ぐ!  
(下城戸の役割)

西からの敵を土塁で防ぐ!  
(上城戸の役割)

## 絵図

DRAWING

貴重な絵図が発見された!



天保11年(1840)に描かれた絵図(杉野家文書)

城めぐりの極意  
一、登るときは攻め手の気持ちで登ること  
一、下るときは守り手の気持ちで登ること

山城を見るポイント



孫次山岩 (まごじやまいわ)

14

城跡群の北端部にあり、射水・舞鶴方面への眺望が広い。東側斜面には長大な堅堀がつくられている。

馬洗池 (うまあらい池)

6

歴代城主の馬を洗ったと伝わる池。空堀だったところを池に改変したもの。土師器、縄文土器が出土。

無常 (むじょう)

7

中心部の南西部を守る郭。西側斜面に堅堀が6条つらなる「連続堅堀群」が見つかっている。

鐘搗堂 (かねつぎどう)

8

無常と地続きだったものを堀によって分断して造成された。時刻を知らせる時鐘台であったかは不明。

三ノ丸 (さんのもり)

9

「オオヤシキ」とも呼ばれる。L字状に長大な堀が回り、崖を寄せ付けない。

安室屋敷 (やすむやしき)

10

構造的に二ノ丸と最も親密な関係にある郭。北側から東側にかけて土塁が残る。「安室」とは、家督を嫡子に譲って隠居した人の住居を意味する。

池ノ平等屋敷 (いけのびらうやしき)

11



ほぼ方形の平坦面に土塁がめぐり、16世紀前半から末葉の土師器が出土している。伍神保夫人入水の井戸(池)にちなむ郭の名称である。

法花坊峠遺構 (はっけぼうとうせき)

12



発掘により方一間の竪柱建物群を出土。建物群後方に穴を穿てた土師器瓦を埋め込んでいることがわかった。城内でもっとも古い15世紀代の遺物が出土している。

亀山城跡 (かめやましろ)

13



発掘により16世紀後半に利用されたことが判明。主郭は、城跡群で最も高所(標高133 m)の高坪山に位置する。射水方面への眺望が素晴らしい。

この谷はまさに天然の空堀!

最南の防御線!